

八千代オイコス かわら版 第43号



令和2年9月1日発行
NPO 法人八千代オイコス
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



新代表挨拶



代表理事 金室 彰

このたび、2020年のオイコス総会にて川瀬代表の後任として代表を仰せつかりました。

長年八千代オイコスの活動に携わってきましたが、代表になるとは思いもよりませんでした。大役を仰せつかり身の引き締まる思いですが、事務局長の小林氏・桑波田女史ともども全力を尽くす所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

オイコスの目的は、市民の皆さん・行政・企業・団体とのパートナーシップによる環境保全活動を通して豊かなまちづくりに寄与することです。私たち「八千代オイコス」は、現場（活動）で汗を流し、終わったらみんなでワイワイと交流を深め、その輪を広げております。これを、私たちは「グラウンドワーク」によるまちづくりと称しています。核家族化が進み、ともすれば近所との付き合いも疎遠となっている今こそ、グラウンドワークによるコミュニティの再生が必要なのではないでしょうか。

私は、市民活動が盛んなまちは豊かな街だと考えています。私たちの団体「八千代オイコス」は、八千代市内の他団体と協力しながらこの自然がまだ残っている八千代で、八千代でしか体験できない、八千代だから出来る、そんな自然体験を通して皆様と共に沢山の自然を楽しんでいく活動をしていきたいと考えています。

八千代オイコス20年の歩み(抜粋)

2001年	設立総会 NPO法人八千代オイコス設立 代表理事 加藤賢三氏 (12月)
2002年	NTTデータと共同実験(インターネット付箋紙実験)(3月から8月)
	グラウンドワークによる「街づくりフォーラム」開催 16市民団体参加 (3月)
	ホテル調査・観察会を開催 (8月)
	高秀牧場隣接地で炭焼きを開始 (11月)
	八千代市からの業務委託による「やちよ ごみマップ」作成 (11月)
	「花輪川フェスティバル in 高秀牧場」を近隣住民との交流を目的に開催 (11月)
	市民活動サポートセンター設立準備委員会参加 (12月)
2003年	八千代市アダプト制度にエントリー (4月)
2004年	「花輪川の美化、環境保全活動」で河川協会から表彰 (5月)
	サポートセンター祭りに参加開始 (11月)
2005年	「川の学校」開始
2006年	八千代オイコスホームページ開設
	八千代オイコス「かわら版」創刊号発行
	萱田地区の田んぼで米づくり開始
2008年	川瀬純一氏代表理事就任
	「印旛沼連携アダプトプログラム合意書」締結(桑納川陸橋～高橋間)(2月)
2009年	八千代市市民活動1%支援制度に応募開始
	畑の体験作業で薩摩芋を収穫し、焼酎づくりに挑戦
2011年	ヤマトミクリの里づくり協議会に参加
2012年	花輪川の放射線量測定開始(花輪橋～中州～土橋周辺)
	環境省より「水、土壌環境保全活動功労者」表彰(12月)
2014年	「第3回印旛沼流域再生大賞」を印旛沼流域水循環保全会議より受賞
2019年	ボランティアカフェ(八千代市市民活動サポートセンター運営委員会・八千代市・八千代市社会福祉協議会・八千代市ボランティアセンター 共催)に参加開始(2月)
2020年	金室彰氏代表理事就任

オイコス活動の思い出

八千代オイコスは、住民・行政・企業とのパートナーシップによるグラウンドワークを活動の基本として、“花輪川プロジェクト”と名付け、河川再生部会、景観修復部会、炭焼き部会、ホテル観察部会の4部会を以って具体活動が始動しました。限られたメンバーで殆ど掛け持ちでの活動でしたが、当時はまだ全員若く、今では楽しい思い出として残っています。そんな中でもメンバーが結束して頑張った活動に、炭焼き部の活動があります。年々ドラム缶の数が増え4缶にもなりチームで仕上がり成果を競ったものでした。当時の作業工程、温度管理表等膨大な記録は(島氏作成)オイコスの貴重な財産として残っています。他にも、オイコスのロングラン活動(15年)にホテル棲息調査があります。毎年7月～8月にメンバー総動員(2人1組)で市内29カ所の棲息調査を行いました。しかし、自然環境のバロメーターともいわれたホテルも年々棲息地の環境悪化により、その姿も急速に減りH26年(2014)この活動に終止符を打ちました。(記録資料あり)

八千代オイコスの代表理事を2008年から12年間務めてまいりましたが、この4月に金室彰氏にバトンを渡しました。この間、新会員も増え、有能で実行力がある理事、会員に恵まれ、活動を進めることができました。長い間ご協力ありがとうございました。

前オイコス代表理事 川瀬純一

米づくり～田植え・草取りを終えて～ 2条田植え機に挑戦



昨年までは米づくり体験事業として一般から募集して実施してきた米づくりですが、今年は新型コロナウイルスの影響により、オイコススタッフのみでの実施となりました。

代かきは例年どおりベテランの佐藤さんに土作りから代かき迄依頼しました。田植えは田んぼ近くの山崎さんの2条田植え機による実地訓練付きの実施となりました。

山崎さんに田植え機の始動から早苗のセット、機械の操作、田んぼへの進入、田んぼの端でのターン方法等、丁寧に教えていただき、最後に2往復と、模範を示していただきました。残りはオイコススタッフ4人で田植えを完了させました。

1回目の草取りは6月7日朝9時30分に田んぼに集合し、道路側に横一列1.5m間隔で並んで草取りを開始しました。ぬかるみに足をとられながらも作業は順調に進みました。取った草は田んぼの端や足跡の窪みに埋めたりしました。まだ草が成長していないので、1時間半位で終了しました。

2回目の草取りは7月5日梅雨空の下、前回通りの工程で始めました。水につかっているエリアには草はありませんでしたが、そうでないエリアには草が繁茂していました。スタッフが考案した熊手で草を掃きましたが思うように取れないので、私は途中より手で取りました。11時半頃雨が降ってきたので、残り1/5位残して終了することになりました。梅雨空の下の農作業の難しい所ですが、近日中に残りの草取り再作業に思いを馳せながら引き上げました。
オイコススタッフ 新谷

花輪川の川作業 ～枯れ木の焼却とほっかほかの焼芋と～

暑い日が続く今日このごろです。世界では新型コロナが広がり大変な状況です。さて、毎月の川作業では入会当初から枯木、枯草の焼去を担当してきました。

大変だったこと 最初は3～40cm枯木、枯草、竹など山積みで川作業の時間内でどれだけ燃やせるか見通しがたちませんでした。大木の切断などスタッフの協力もあり数ヶ月かけてようやく燃やし切りました。また、梅雨時は木材が濡れてなかなか火がつかず苦労しました。家に帰れば煙の匂いが下着から作業着まで染み込み家内からクレームです。

楽しかったこと 焚き火の楽しみはやはり冬場の川作業で暖まれることです。寒い日は早めに来て焚き火をすると身体も暖まり作業の士気も上がります。また、さつま芋、銀杏、もちなどを焼いたり、近くの農場で入手した牛乳を温めれば格別です。現在は焚火のかいもあり、綺麗に整備された通路の両側に花が咲き乱れています。
オイコススタッフ 川田



花輪川サルビアの植栽



今回のサルビア植栽は6月14日に植栽場所の花壇の確保と整備、また、6月17日には緑化公社においてサルビアの引き取り後、花輪川で植栽作業と、計2日で実施しました。幸いに両日とも雨も降らず順調に作業を進められました。

14日の花壇準備は今植えてあるパンジーを撤去し、雑草除去、鋤入れを実施しました。今回は川作業の一環として実施されたため、人手も多く順調に作業が出来ました。

17日のサルビアの植栽は午後からになりましたが、思ったより気温も上がり順調に作業が進みました。今回は通路を挟み川側と畑側に植栽しました。サルビアは午後の引き取りの為、緑化公社では葉が萎れている株も見られましたが、植えてからの水やりで萎れた葉もなくなり皆元気そうでした。畑側の通路には今アジサイが見頃でサルビアの赤色との対比が綺麗です。しばらくは散歩の時、目を楽しませてもらえそうです。
オイコススタッフ 川田

「谷津」ってどんなところ



八千代市内には、谷津と呼ばれる場所がいくつかあります。

オイコスの活動の拠点は、「花輪谷津」と呼ばれています。鳥になったつもりで空から見ると、緑が丘駅のあたりの台地から東葉高速操車場下に花輪川が流れ、それに沿うように田んぼが桑納川まで広がっています。

田んぼの周りには集落があり、貞福寺、吉橋城址（鎌倉時代築城）、吉橋を中心として四国八十八箇所を写した 88 か所の霊場札所を巡る札所も見えてきます。

田んぼは稲作が主で、台地側は梨、野菜、牧場など食料生産の基地となっています。

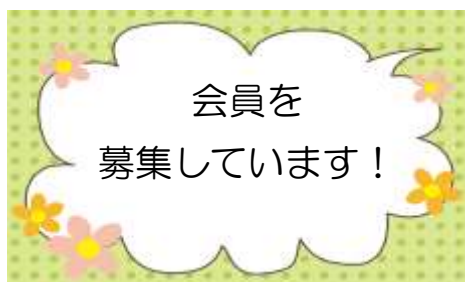
谷津は台地（丘陵地）が侵食されて形成された谷状の地形を言います。このような地形は地方により呼び名が違います。東日本（関東・東北地方）では、谷戸・谷津・谷地、菴（やち）・谷那（やな）、西日本（中国・九州地方）では、迫・佐古（さこ）、岐阜県では洞（ほら）と呼ばれているそうです。

谷津は食料・文化・癒しなど人が暮らすためには必要な場所です。人の暮らしが谷津の環境を作ってきました。かつては、雑木林では燃料、落ち葉は肥料として野菜などを作り、田んぼの近くは水が出るので家を建て住みました。台地では井戸を深く掘る必要があり、「上総掘り」の手法は有名です。

このように谷津の環境は人々の暮らしを支え、また利用することで谷津の環境も維持され、多様な生き物がすむ「生物多様性」も育んできました。

「人と自然との共生」重要ですね！

オイコススタッフ 桑波田



八千代オイコスでは、現在会員を募集しています。環境保全や地域の自然保護などに関心をお持ちの方、一緒に活動しませんか！

お問い合わせは事務局まで。

編集後記

今年度の八千代オイコス総会はコロナ対策のため役員のみでの開催となりました。当初、花輪川で青空会議とする予定でしたが、荒天のため場所をやちよ農業交流センターふれあいモールに移動して実施。何もかも手探り・異例の新年度の幕開けです。また、この日をもって川瀬・島両理事が任期満了を期に退任されました。長い間お疲れ様でした。（NONN）



発行責任者：金室 彰

事務局&問合せ：小林

☎090-1842-8738

mail : info@yachiyo-oikos.jp

